

人民銀行の利上げ

田中 修

はじめに

人民銀行は、7月7日利上げを実施した。1年物預金基準金利は0.25ポイント引き上げられ3.50%となり、1年物貸出基準金利も0.25ポイント引き上げられ6.56%となった。5年以上の貸出基準金利は7.05%と、7%を突破した。昨年から通算5回目、今年3回目の利上げである。本稿では、利上げの背景を紹介したい。

1. 人民銀行貨幣政策委員会第2四半期例会（7月4日）

会議は当面の内外経済金融情勢を分析した。会議は、次のように認識した。現在わが国経済金融の運営はマクロ・コントロールが予定している方向に向けて発展しているが、経済金融の発展が直面する情勢は依然複雑である。世界経済は引き続き緩慢に回復しているが、直面するリスク要因は依然比較的多い。わが国経済は平穏で比較的速い発展を続けているが、インフレ圧力は依然高止まりとなっている。

会議は、次のことを強調した。内外経済金融の最新動向及びその影響に密接に注意を払い、穏健な金融政策を貫徹実施し、政策の安定性・的確性・柔軟性の把握に注意し、政策のテンポ・程度をしっかりと把握しなければならない。多様な金融政策手段を総合的に運用し、マクロの慎重かつ周到な政策枠組みを健全化し、流動性を有効に管理し、合理的な社会資金調達規模とマネー総量を維持しなければならない。貸出構造の最適化に力を入れ、商業銀行が重点分野・脆弱部分への貸出支援、とりわけ「三農」、中小企業への貸出支援を強化するよう誘導しなければならない。引き続き、直接金融の役割を発揮させ、多様化した投融资需要を更に好く満足させなければならない。人民元レートの形成メカニズムを更に整備し、合理的な均衡水準での人民元レートの基本的安定を維持する。

2. 利上げの背景

市場では、近々発表される6月のCPI上昇率が更に悪化しているとの見方が強まっている¹。6月27日から7月3日にかけて、豚肉は前の週より3.4%上昇しており、騰勢は終息していない（中国証券報2011年7月6日）。この状況では、預金金利の実質マイナス幅は更に拡大し、預金者が預金を引き出し住宅投機に走るおそれがあった。

また、7月中旬には4-6月期のGDPが発表されるが、経済成長率の減速がはっきりしてくると、スタグフレーションを防止するため金融引締めの見直しを求める声が高まり、

¹ 統計データの機密漏洩事件を受けて、国家統計局は統計データを特定日に集中発表することを止め、PPI、CPI、工業生産、固定資産投資、不動産開発、社会消費品小売総額等の主要統計指標を個別に確定後24時間以内に公表することとしている。

金融政策の手足が縛られるおそれがある。金利の変更は特に国务院の承認が必要となるので、金融政策のあり方をめぐる議論が本格化する前に先手を打ったのであろう。

さらに、最近金融市場の金利が上昇傾向にあり、中央銀行手形の発行金利が預金金利を上回る状態になっていたことも利上げの決断を促進したものとみられる。

(7月19日記)